

令和5年度 自己評価・学校関係者評価

令和6年2月27日

新富町こども園

1 教育目標

いきいきとやる気を持って遊ぶことができ 自立心のある子どもに育てる

2 めざす子どもの姿 ～生きる力の基礎を培う～

- 1、明るく健康な子
- 2、自立心があり、周りの人のことをよく理解できる子
- 3、身の回りの事物に関心を持つ子
- 4、言葉をよく理解し、上手に使える子
- 5、積極的に表現のできる子

3 重点目標

やってみよう おもしろいな
意欲をはぐくみ、遊びこめる環境作り

4 評価項目の達成及び取組状況

よい ^{努力したい}
A-B-C-D

評価項目	結果	理由	関係者評価
①保育の充実	A	<p>子どもたちの思いに寄り添いながら、1人ひとりが自分を発揮しながら夢中で取り組める保育を目指して取り組んできた。</p> <p>コロナが5月に5類へ移行となり、今年度は4年越しに祖父母のつどい（幼児組）や地域の皆様との交流会（幼児組、主に年長児）、姉妹園であるなかはら幼稚園との交流会（年長児）を実施することができた。</p> <p>昨年度は鳥獣被害でできなかったさつまいもの収穫にも出かけられ、収穫したさつまいもを使い、幼児組が各学年でクッキングを行った。実際に自分たちで調理をし、皆でいただくことは貴重な経験になったと思う。</p> <p>感染症が無くなったわけではないので、引き続き配慮は要するものの、子どもたちの心を揺さぶるようなより豊かな経験を積み重ねていきたい。</p>	<p>A</p> <p>コロナにより、これまでできないことが多々あったと思うが、経験の幅をひろげられ、より豊かな経験につながった。引き続き取り組んでほしい。</p>
②保育の計画性	B	<p>互いに声を掛けながら先を見通し、余裕を持って進められるように意識をしてきた。うまくいった部分もあるものの、やはり行事直前に時間的余裕がなくなることがある。</p>	<p>B</p> <p>忙しい毎日の中、</p>

		<p>他と並行して行っていく難しさはあるが、学年を問わず全職員でフォローしながら、より綿密なチームワークを図りたい。</p> <p>昨年度までの課題であった縦割りの相棒活動。日々のかかわりは充実していると思うが、今年度も年間を通した計画的な活動ができなかった。来年度こそは、定期的に遊びの機会を設けていきたい。</p>	<p>職員が連携を図りながら進められている。</p> <p>できなかった部分を次年度の課題として生かしてほしい。</p>
③保育のあり方 子どもへの対応	B	<p>子ども1人ひとりのことを職員間で情報共有し、園全体で子どもたちの育ちを支えていると思う。気持ちに寄り添いながら、丁寧にかかわる保育を徹底していきたい。</p> <p>園内研修で他クラスの保育を参観すると子どもたちの良いところに気づくだけでなく、かかわり方、自らの保育を振り返ることもでき、良い機会となっている。「受け入れてもらえる」「そばにいてくれる」と安心感を持つことで、子どもたちと保育者の信頼関係はより深まり、さらなる一歩を踏み出す時、背中を押してくれているのではと思う。</p>	<p>A</p> <p>子どもたちの姿からも園生活が充実していることが伝わってくる。日頃のきめ細やかな配慮の表れだと思う。</p>
④教師としての 資質能力、 適性など	B	<p>職員の連携は非常にとれていると思う。担当として任されたことに對し、担当同士で声を掛けあいながら責任を持って取り組みことができている。報告や連絡、相談ができていると思うが、完全ではないので、引き続き各自が意識していけるように促していきたい。</p> <p>物の始末や管理がきちんとできていないことや中途半端で止まっていることもある。職員1人ひとりが自分事として細かいところにまで気を配れるようにしたい。そうすることで人任せではなく、各々がきちんと責任を果たすことに通ずると考える。</p>	<p>A</p> <p>4年経ち連携がとれ、助け合いができている。大変さ等悪い印象ばかりが表歩きしているが、魅力を訴えていきたい。</p>
⑤保護者への 対応	B	<p>感染症の有無にかかわらず、子どもたちの様子を踏まえ、玄関での受け入れを継続しているため、現在も園内に入っただくことはほとんどない。登降園の限られた時間の中でゆっくりとお話することは難しいが、個々に様子を伝えさせていただき、玄関ボードや月々のお便り、HP等で情報発信を心掛けている。</p> <p>また全学年で実施している個人面談では、家庭の様子を伺いながら園の様子を詳しくお伝えしている。</p> <p>様々な方法で子どもの育ちを保護者の方と共有しながら、子どもたちの育ちを支えていきたい。</p>	<p>A</p> <p>申し送りや細やかな情報共有により安心して預けられている。園任せではなく家庭力もあげながら、手を取り合い、子どもを育てていきたい。</p>
⑥地域の自然 や地域との かかわり	A	<p>前述の通り、地域の方々との交流の場を設けることができた。初対面であるにもかかわらず、自ら声を掛けて誘ったり、一緒に遊んでいただいたりする姿は実にあたたかなものだった。改めて地域の皆様に温かく見守っていただけていることを実感し、ありがたく思う。</p>	<p>A</p> <p>ようやく地域との交流の機会を持つことができ、</p>

		<p>近隣の公園等にもよく出かけ、遊ぶ中で季節の移り変わりを感じている。</p> <p>幼児組は今年度も、園バスを借り、園外保育やじゃがいも、大根の収穫を実施。バスでの外出が子どもたちにとって大きな楽しみになっている。日頃とまた違う体験が貴重な機会となっている。</p>	<p>楽しかった。出向く機会を設け、地域に開かれた園であってほしい。</p>	
⑦研修と研究	B	<p>研修会はコロナ前と同じくらい様々な研修があり、多くの研修に参加し、研鑽を積むことができた。しかし、今年度も人的余裕はないため保育の都合上、研修に多くの職員を出すことは難しく、参加者の偏りは大きい。勤務体系に限らず、新たな学びを得られるようオンライン研修も利用した。時間配分等の難しさはあるものの、受講機会の1つとして生かしていきたい。</p> <p>月1回の園内研修会では、互いの保育を見合い、気づいたことを話し合っている。気づく目を養い、自分の保育を振り返る良い機会となっているので、今後も継続していきたい。</p>	B	<p>忙しい中、工夫しながら取り組んでいる。引き続き無理のない中で進めていけるといい。</p>
⑧アンケート	B	<p>各月の誕生会へ参加した保護者からは、「家とは違う姿に驚いた」「友だちや先生とのかかわりに成長を感じた」等と声が寄せられた。運動会、生活発表会については、新たに親子競技や未就園児競技を追加した。来場人数の規制を少々緩和し、多くの方に観て頂けるようにした。夏祭りや乳児組参観会も実施することができ、お子さんと一緒に楽しむ機会も設けることができた。保護者からは、楽しかったの声と共に苦勞をねぎらう温かな言葉がたくさん寄せられ、ありがたく思う。子どもたちにとって大切なことを無理なく実施していくために工夫や検討をしていきたい。未就園児を対象に子育てウィークや子育てサロンを実施。少人数ではあるものの母親同士で話をし、交流の場となっている。</p>	A	<p>「責任は園側に」というような風潮があるものの、よくやってくれていて、保護者も安心して預けることができている。地域の子育て世代を支えてほしい。</p>

5 本年度のめざす子どもの姿および重点課題の総合的な評価結果

<p>5類へ移行するもすぐに大きく変えることはできず、様子を見ながら徐々にできることを広げてきた。結果的には、新たに豊かな経験もでき、めざす子どもの姿としては概ね達成されていると思う。縦割り活動については課題として、次年度こそは計画的に盛り込んでいきたいと思う。</p> <p>子どもたちが自ら「やってみたい」「もっとやりたい」と意欲的に遊びに向かい、夢中になって取り組む姿に大きな成長を感じる。子どもたちの育ちを園と家庭がしっかりと共有し、その後の成長をしっかりと支えていけるようにしたい。</p> <p>落ち着きに欠ける部分はあるものの、物ごとに向かっていく力や自分の思いや考えを自分の言葉で伝えようとする力を強く感じる。これは、新富町こども園の子どもたちの大きな強みである。その強みを今後もより伸ばしていけるようにしたい。</p>
--

課題	具体的な取り組み方法
より豊かな経験を	<p>姉妹園との交流会を年中児でも実施したい。互いの園を行き来しながら交流を深めていきたい。本園は1クラスしかないが、こうした経験を通じ、いろいろと友だちと過ごす楽しさを感じてほしい。また不安も多い就学に向けて背中を押す一助となったらと願う。引き続き、散歩にもたくさん出かけたい。車移動が多い子どもたちなので、歩く経験を大切にする。地域に親しみを持ち、いろいろなことに気づく感性を培っていきたい。</p>
縦割り活動の充実	<p>今年度の課題として挙げていたもののきちんと実践することができなかった。日々のかかわりはあるものの、相棒活動として年間での大まかな計画を立て、一年を通じて取り組んでいきたい。相棒活動の充実により、親しみを持ち、日々のかかわりがさらに広がってくることを願っている。</p> <p>今年度後半は乳児組と散歩に出かける等の取り組みもあり、微笑ましいかかわりが見られた。ぜひ今後も充実させていきたい。</p>
職員力の向上 人材確保	<p>学年を越え、声を掛けあい、連携を図ってきている。中核となる職員を中心とし、その連携をより強くしながら園としての職員力を高めていきたい。十分とは言えない人員配置の中だが、互いに助け合いながら仕事を進めている。人的ゆとりを持つためにも人材確保や人材育成も逼迫した大きな課題である。</p> <p>保育に対する姿勢や物ごとに向かう時のイメージを共有することが大切。それと同時に柔軟な考えも持ちながら、より良い道を皆で模索したい。</p> <p>中学生の職場体験も積極的に受け入れている。未来ある子どもたちを育てるこの仕事の魅力を大いに発信し、興味を持ってもらえるよう努力していきたい。</p>
きれいな言葉 気持ちの良い挨拶	<p>大きくなるにつれ、荒い言葉遣いが気にかかる。それが原因でけんかになることもある。相手がどんな思いをするかを伝えながら、きれいな言葉を使っていけるようにしたい。そのためにも保育者も自分の言動を常に意識したい。</p> <p>毎朝、挨拶をして出迎えているが、恥ずかしがってしまう子どもも少なくない。気持ちの良い挨拶を交わして一日をスタートしたい。単語でのやりとりが増えてきているが、言葉を補いながら、園目標にもあるように「上手に言葉がつかえる子」を目指したい。</p>

評議員の皆様より	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの移行により、試行錯誤しながら積み上げてきて今がある。徐々に改善しながら流れに合わせてよりよく進めていくことが大切。姉妹園交流も良い刺激になり、今後の子どもたちの成長に期待したい。 ・忙しい日々の中、連携を図りながら、工夫しながら様々なことを進められていることは、とても評価できる。無理のないように配慮しながら、より良い保育のためにこれからも尽力して欲しい。 ・人材確保、人材育成についてはなかなか厳しい状況とのことではあるが、職場体験等で若い世代にこの仕事の魅力をもっと知ってもらい、未来の担い手になってもらえたらと思う。
----------	--